

ゲームによる本の紹介事例_「モンスターメーカー」

「モンスターメーカー」は剣と魔法と怪物、そして宝物のゲームでした。

こういったファンタジー世界といえば、この本です。ゲームの最強キャラクター「ガンダウルフ」の元ネタ、魔法使いガンダルフも登場します。

①『[ホビットの冒険](#)』瀬田 貞二／訳, J.R.R.トールキン／作 岩波書店 2002.12

ホビットという小人族の青年ビルボが、仲間と共にドラゴンの住む洞窟へ宝探しに行きます。エルフやドワーフ、ゴブリンなども出てきます。ファンタジー系ゲームの元となった小説で、この続編が『指輪物語』です。「ホビット」「ロード・オブ・ザ・リング」として映画化もされました。

②『[世界の古代遺跡](#)』学研パブリッシング 2013.5

「モンスターメーカー」のような迷宮で宝探しというと、古代遺跡が思い浮かびます。こちらの本では、世界遺産級の物を中心に、古代の巨大遺跡をオールカラーで紹介しています。どんな宝物が眠っていたか、想像力が刺激される一冊です。

③『[これから始める人のためのわな猟の教科書](#)』東雲 輝之／著 秀和システム 2018.7

ゲームのなかで、イヤだったのがトラップカードです。罠にかかってひどい目に遭います。しかし、罠とはどんな仕組みなのでしょう？ 足を引っかける罠や落とし穴が考えられますが、細かいところはわからないですね。この本では、罠猟、野生動物を捕らえる罠の作り方、扱い方がマンガやイラスト、写真付きで解説されています。ただし、獲物を肉にするまでの過程も載っているので苦手な人はご注意ください。

④『[洞窟ばか すきあそば、前人未到の洞窟探検](#)』吉田 勝次／著 扶桑社 2017.1

宝探しの迷宮、で洞窟の方を思う浮かべる人もいるでしょう。実際の洞窟にお宝があることはほとんどないですが、それ以上の素晴らしい景観が見られるところもあります。その魅力にとりつかれて、洞窟探検にのめりこむ人がいるほどです。こちらはそんな洞窟探検家の本です。危険を乗り越え、未知の領域へ挑む様子が楽しくかつリアルに書かれています。

⑤『[イマドキ古事記](#)』岩淵 円花／[訳]著 幻冬舎(発売) 2017.1

「モンスターメーカー」は宝探しに行って、帰ってくるゲームでした。日本の神話には、地下洞窟、というか地下の国、黄泉の国に行って戻ってくるお話が2つあります。イザナギ・イザナミのお話と、オオクニヌシのお話です。特にオオクニヌシの方は宝物を手に入れ、黄泉の国の神サノオの娘も連れ帰っているので、モンスターメーカー的と言えます。この本は、そんな日本神話、古事記をラノベ風にアレンジしたものです。原典を大事にしつつ、たいへん楽しく読めるようになっています。